

「日本語購読」の最終レポート 1

ヘザー・オコネル

カリフォルニア州立大学モントレイ校・3年

私のグループには、中国人が二人、韓国人が二人、イギリス人が一人、台湾人が二人、そして、アメリカ人の私が一人いた。つまり、メンバーが私を含めて8人いた。しかし、劇の役割が13あったので、メンバーは役割が一つ以上した。

まず、私がした仕事について書く。グループに分けた前に、皆は自分のストーリーを書かなくてはいけなかった。私も、「最低の日本人」についてのハッピーエンドストーリーを書いた。しかし、私は最低の日本人に会ったことがないので、私が書いたストーリーはフィクションだった。他のメンバーの実話をもとにして書いたストーリーの方が面白かったので、私たちの劇は皆の実話について書いてあった。私は皆と一緒に皆のストーリーを交じって劇のストーリーやシーンを作った。ストーリーを作った後で、皆は授業以外の時間にセリフを作りあうつもりだったが、皆に会える時間がなかったので、次の授業で会って、セリフを練習した。私は店長の役割をしたので、私はシーン4からシーン7（終わり）まで出た。自分でセリフを練習したことで、劇がうまくいくように配慮した。授業以外の時間に皆に会える時間が少なかったので、私は道で歩くときに練習したり、シャワーを浴びるときも練習したりした。

数字：570

「日本語購読」の最終レポート 2

ヘザー・オコネル

カリフォルニア州立大学モントレイ校・3年

「異文化理解」というのは、自分の母国の文化だけではなくて、他の国の文化も理解することだと思う。例えば、自分の文化と他の国の文化の似ていることや違うことが理解できたら、異文化を理解する。しかし、外国に住んでいることは別にして、どうやって異文化理解できるだろうか。ここは「発信」が必要だと思う。「発信」というのは、何かを伝えることだ。例えば、他の人と一緒に何かを作る時、新しいアイデアが頭に浮かんだら、他の人にアイデアを伝えるのは「発信」だと思う。

日本に来てから、文化衝撃があまりなかった。実は、日本に来ることは初めてではない。6年前、日本に来たが、その時も、文化衝撃が少なかった。なぜかという、私は日本に興味があるので、日本に来る前に日本のことを学んだからだ。時々、私は思わなかったことを見ると、「面白い」と思うが、非常にショックではない。例えば、お正月の三社参りは、神社に参った人がいっぱいだったが、その文化はもう知っていたので、実際に見るのは面白くても、びっくりしなかった。

今回の劇から、私は他の留学生のストーリーが分かった。劇の前に、私は他の留学生とあまり話なかったので、彼らのストーリーを聞いたこともなかった。例えば、私は日本へ来てから、英会話や交流のアルバイトしかなかった。普通のアルバイトしたことがない。しかし、劇を作ったことのおかげで、私は他の国の留学生のストーリーも分かった。

結論として、異文化を理解するため、多文化についての発信が必要だと思う。例えば、アメリカには他の国の映画は普通の映画館にあまり上映されていない。他の国に写したアメリカの映画だけです。時々イギリスの映画も上映するが、字幕ができるのに、他の言語の映画は普通の映画館に上映されていない。これは問題だと思う。なぜなら、ほかの国の映画が見られないと、他の国の文化も分からないからだ。しかし、インター

ネットの普及のおかげで、他の国の映画やドラマが見られることが増えている。映画を見ることは、実際に体験したり交流したりすることに同じではないが、異文化理解へ一歩近づくと思う。

数字：876